

変わる勇気、変わらぬ心

和歌山県立田辺中学校 3年 坂 倉 朱 音

「不易流行」今の日本において、この言葉が大切なのではないかと考える。

不易流行とはいつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねている

ものを取り入れていくことである。私がこの言葉を知ったのは、生活指導の先生が校則について話している時だ。先生は

「校則には、変えてはならない不易の部分と、時代に合わせて変えていくべき流行の部分がある」。

と話していた。スマートフォンの扱いなどは、時代の流れによって生まれた流行に合わせて考え直す必要があるけれど、制服の着こなしなどは、いつの時代でも変わらない不易だという。

この話を聞いた時、私は初めて「不易流行」という言葉の奥深さを感じた。これまで校則は「ただの決まりごと」だと思っていたけれど、その裏には、「どうすれば社会の中でより良く生きていけるか」という問いがあると知ったからだ。同時に、これは校則だけでなく、私たちの社会全体に言えることだと思う。

たとえば、日本の伝統文化には「不易流行」の精神が色濃く表れている。茶道、歌舞伎、和食。どれも何百年という時を超えて受け継がれているが、全く同じ形で続いているわけではない。たとえば、和食は外国人観光客向けにベジタリアン用のメニューを用意したり、伝統的な調味料と現代的な食材を融合させたりする工夫が見られる。それでも四季を大切にしたり、素材の味を生かすという「和食の心」は変わっていない。

このように「変わらないもの」と「変わっていくもの」のバランスがとれているからこそ、日本の文化は今も世界に誇れるものとして存在しているのだと思う。

一方で、今の日本には「不易流行」のバランスが崩れてしまっているように感じる場面もある。たとえば、SNSの普及により、情報や価値感の「流行」が一瞬で広まり、次から次へと新しいものが求められている。便利さやスピードは確かに魅力的だけれど、それに振り回されてしまい、「自分はどうしたいのか」「何を大切にしたいのか」といった、「不易」な部分を見失っている人も多いと思う。また、大人の社会でも「伝統を守る」という言葉が、変化を拒む言い訳になっているように見えることがある。働き方改革やジェンダー平等といった新しい価値観に対して、「昔からこうしてきたから」と耳をふさぐような姿勢は、本当の意味での「不易流行」とは言えない。

「不易流行」とは、ただ「変える」か「変えない」かを選ぶことではない。本当に大切なものは何かを見極めたうえで必要な変化を受け入れ、柔軟に対応していく。そのバランスこそが求められているのだ。

私自身、これから進学し、社会に出ていく中で、多くの選択を迫られることになると思う。その時、すぐに流されてしまわないように、自分の中にある「不易」を持ち続けたい。でも同時に、自分の考えだけに固執するのではなく、時代や人との関わりの中で「流行」を柔軟に取り入れる姿勢も忘れたくない。

今、日本は大きな変化の中にある。少子高齢化、テクノロジーの進化、価値観の多様化など。どれもが私たちに新しい対応を迫ってくる。だからこそ「不易流行」という言葉がこれまで以上に重要になってくるのではないだろうか。

変わらないものを大切にしながらも、変わっていくことを恐れない。そのバランスを意識しながら、私たちはこれからの社会をつくっていかなければならない。

「不易流行」は、古くて新しい、日本人がこれからも大切にしていけるべき考え方だと、私は思う。